

自立活動 学習指導案

授業日時	令和4年 月 日(曜日) 6校時 14:50～15:40
対 象	高等部6名 1年生2名 2年生2名 3年生2名
場 所	
指 導 者	

1 題材名 こんなときどうする？(アサーション・トレーニング)

2 生徒の実態

本時の学習グループは、知的障がいを伴う発達障がいのある生徒6名で構成されている。複数での話合いで自分の意見を伝えたり意見をまとめたりすることに苦手意識が見られるが、ペア活動ではテーマについて相手に簡単な質問をしたり、その質問に対して答えたりすることができる。本題材における個々の生徒の特性や特記事項については、次に示す。

A	・軽度知的障がい、注意欠陥多動性障がい ・思ったことをそのまま発言してしまうことがある。 ・情緒が安定しているときは自分の意見を伝えたり聞いたりすることができる。 ・遊びなどの誘いを断りたいときでも誘いに乗ってしまうことがある。 ・集中できる時間は短いが休憩をとることで学習に取り組むことができる。
B	・自閉症 ・話すときや聞くときに相手の目を見ることができる。 ・積極的に人と関わろうとしないが、質問をすると自分の意見を伝えることができる。 ・指示の内容が多かったり複雑になったりすると理解できていないことがある。
C	・注意欠如多動症(不注意優勢型)、軽度知的障がい ・自分から話すことは苦手だが、話すテーマや質問方法を説明すると意欲的にコミュニケーションがとれる。 ・指示の内容が多かったり複雑になったりすると理解できていないことがある。 ・自分のペースを乱されると相手への気遣いや配慮が足りなくなることがある。 ・話すときや聞くときに相手の目を見たりうなづいたりすることができる。
D	・自閉症スペクトラム障がい、知的障がい、注意欠如多動性障がい ・時折口調がきつくなることがある。慣れた相手には質問をしたり、冗談を言ったりするなど積極的に話しかけることができる。 ・話すときや聞くときに相手の目を見たりうなづいたりすることができる。
E	・広汎性発達障がい、境界知能 ・興味関心のあることには反応して質問もできる。質問に対して自分の意見を考えて伝えることができる。 ・話すときや聞くときに相手の目を見たりうなづいたりあいづちを打ったりすることができる。
F	・発達障がい(ADHD 広汎性発達障がい)、知的障がい ・質問に対して自分の意見を伝えることができるが、短い言葉で返答することが多い。 ・慣れた相手には積極的に話しかけることができる。 ・話すときや聞くときに相手の目を見ることができる。

3 題材設定の理由

本校では、週に2時間の自立活動の授業が設けられている。本時の学習グループにおける自立活動は、「人間関係の形成」「コミュニケーション」に焦点を当てて学習に取り組んでいる。これまでは、“聴く”ことにポイントを絞り、相手の目を見ることやうなづきなどの聴くスキルの向上を目的に学習に取り組んできた。

本時の学習グループには、人と話すことに自信が持てずに不安を抱えている生徒や、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちや状況の把握が苦手だったりする生徒が在籍している。日常の学校生活では、学年やクラスを越えて関わりをもちながら過ごす姿が見られる一方で、自分の望まない状況でも伝え方が分からず我慢してしまうことがある。また、知識として理解しているが、実際の場面で知識を活

かすことが難しい生徒もあり、障がい特性からくる般化の難しさがうかがえる。

このような生徒たちの実態を踏まえて、本題材で生徒につけさせたい力は、「相手の気持ちに配慮して自分の気持ちや考えを表現できるようになること」である。この力は生徒たちが、現在及び将来の生活の中でより良好な人間関係を築いていくために重要な力であると考えている。そこで本題材では、「自分の気持ちを大切に」「相手の気持ちも大切に」するアサーションの考え方を中心に学習を展開している。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編「6 コミュニケーション（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること」には、「コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるようにすることを意味している。」とあることから、日常よくある場面を設定し、“Iメッセージ（私はどうしたいか）”を基本にどのように相手に伝えるのかを考えさせたい。相手の状況や立場、気持ちなどを意識できるよう視覚的にタブレットで示し、それに応じたふさわしい表現を伝える体験を積んでほしい。振り返り活動では、生徒同士が評価シートを使用して相手の良いところを書いて交換する時間を設定している。この経験の中で成功体験を増やし、自分の気持ちや考えを伝える意欲を高めて学校生活や社会生活で般化できるようにしていきたい。そして自分自身の評価も行いアサーションについての考えを深めてほしい。

生徒たちは、普段の学校生活はもちろん実習などを通して、卒業後の社会生活でも様々な人と関わっていくことになると思う。アサーションを取り入れたコミュニケーションを通して学校生活や将来の社会生活の中で良好な人間関係を築いてほしいと願い本題材を設定した。

4 題材の目標

- ・アサーションの方法について理解することができる。[6-(1)]
- ・相手の立場や状況を把握することができる。[6-(5)]
- ・相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。
[6-(2)]
- ・相手の気持ちに配慮して、自分の思ったことを伝えることができる。[6-(2)]
- ・ロールプレイングを体験することで、自己評価や他者評価ができる。[2-(3)]

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アサーションとは何か自分で説明することができる。 ・相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。	・相手の立場や状況を把握することができる。 ・相手の気持ちを考えて自分の思ったことを伝えることができる。 ・ロールプレイングで他者評価することができる。	・自分のよかったところや課題となることを振り返ろうとしている。 ・ペアやグループで協力してロールプレイングに取り組もうとしている。

6 指導計画（全6時間）

第1次 アサーションについて・・・2時間

第2次 こんなときどうする？・・・4時間（本時3／4）

7 本時

（1）本時の目標

生徒	個人目標
A	・教師のアドバイスを受けて相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。[6-(2)] ・相手の気持ちを考えて、自分の思ったことを伝えることができる。[6-(2)] ・ロールプレイングを見て相手の良いところを評価することができる。[2-(3)] ・ロールプレイングの自己評価をすることができる。[2-(3)] ・教師と相談して決めた時間に休憩をとることで、授業に落ち着いて参加する時間を増やすことができる。[2-(1)]
B	・教師のアドバイスを受けて相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。[6-(2)] ・相手の気持ちを考えて、自分の思ったことを伝えることができる。[6-(2)] ・相手の気持ちに配慮した口調や表情を意識することができる。[6-(5)]

	・ロールプレイングを見て相手の良いところを評価することができる。[2-(3)] ・ロールプレイングの自己評価をすることができる。[2-(3)]
C F	・相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。[6-(2)] ・相手の気持ちを考えて、自分の思ったことを伝えることができる。[6-(2)] ・相手の気持ちに配慮した口調や表情を意識することができる。[6-(5)] ・ロールプレイングを見て相手の良いところを評価することができる。[2-(3)] ・ロールプレイングの自己評価をすることができる。[2-(3)]
D E	・相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。[6-(2)] ・相手の気持ちを考えて、自分の思ったことを伝えることができる。[6-(2)] ・ロールプレイングを見て相手の良いところを評価することができる。[2-(3)] ・ロールプレイングの自己評価をすることができる。[2-(3)] ・ペアでロールプレイングに取り組む際はスムーズに行えるような声かけをすることができる。[3-(1)]

(2) 展開

時間	学 習 活 動	T 1	T2	学習活動における具体の評価規準	評価方法
5分	1 始まりの挨拶をする。 2 本時の流れについて知る。 3 本時の目標を確認する。	・姿勢や気持ちの準備が整っている様子を確認し号令をかけるよう促す。 ・本時の流れを板書し、授業の流れに合わせてマグネットを動かす。 ・本時の説明を行う。 ・黒板に注目するよう声をかける。	・姿勢を正しているか確認する。 ・T1に注目して話を聞いているか確認し、できていない生徒には注目するよう促す。	・姿勢を正して挨拶ができる。 ・T1に注目して話を聞くことができる。	観察 観察
18分	4 アサーティブな言い方について考える。 ・本時でとりあげる場面の説明を聞く。	・MetaMoJiClassRoomを開いて説明文を読むよう指示する。	・MetaMoJiClassRoomを開いているか確認する。	・指示を聞いてアプリを開く、動画を見るなど行動に移すことができる。	観察
	・非アサーティブの動画を見る。 ・動画について感想を述べ合う。	・動画を見る上でのポイントを伝えておく。 ・動画を見た感想をオープンクエスチョンで聞く。感想が出にくい場合は質問をする。(質問項目) ・Iメッセージを	・動画に注目できていない生徒には見るように促す。		

		伝えられていたか。 ・口調はどんな感じだったか。 ・体調が悪いことに気づいていたか。			
	・アサーティブな言い方を考える。	・自分ならこんなとき何と言うかを考えるよう指示を出す。	・困っている様子があれば適宜アドバイスをする。	・教師のアドバイスを受けて相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。(A・B) ・相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいか考えることができる。(C・D・E・F) ・教師と相談して決めた時間に休憩をとることで、授業に落ち着いて参加する時間を増やすことができる。(A)	iPad (MetaMoJiClassRoom) iPad (MetaMoJiClassRoom) ・観察
	・アサーティブの動画を見る。 ・動画について感想を述べ合う。	・誘われた人は相手の気持ちを考えて、どんな言葉や口調で伝えているのかに注目するよう指示する。 ・動画を見た感想を聞く。	・動画に注目できていない生徒には見るように促す。		
	・自分の答えの確認を行う。	・自分ならこんなとき何と言うかを考える時間を再度設定する。	・困っている様子があれば適宜アドバイスをする。	・教師のアドバイスを受けて相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。(A・B) ・相手の気持ちを考えて自分の思ったことをどのように伝えたらよいかを考えることができる。(C・D・E・F)	iPad (MetaMoJiClassRoom) iPad (MetaMoJiClassRoom)
15分	・アサーティブな伝え方を共有する。	・各々が考えた伝え方をテレビ画面に表示する。	・テレビ画面に注目できていない生徒には見るように促す。		
	5 ロールプレイングを行う。 ・二人組になる。	・二人組になる指示を出す。 ・評価シートを配付しておく。	・ロールプレイングができているか見守り適宜アドバイスをを行う。	・相手の気持ちを考えて自分の思ったことを伝えることができる。 ・相手の気持ちに配慮	観察 観察

	・交代でロールプレイする。 ・評価シートを記入する。	・ロールプレイング後，評価シートに評価を記入するよう指示する。 ・相手の良かったところ等を伝える時間を設定する。	・評価シートに記入し，伝え合っているか確認する。	した口調や表情を意識することができる。(B・C・F) ・ペアでロールプレイングに取り組む際はスムーズに行えるような声かけをすることができる。(D・E) ・ロールプレイングを見て相手の良いところを評価することができる。	観察 ワークシート
12分	6 振り返りをワークシートに記入する。 7 終わりの挨拶をする。	・振り返りシートを使ってロールプレイングの振り返りを行うよう指示する。 ・担当に号令をかけるよう促す。	・評価シートを参考に振り返りを行っているか確認する。 ・姿勢を正しているか確認する。	・ロールプレイングの自己評価をすることができる。 ・姿勢を正して挨拶ができる。	ワークシート 観察

8 教室の配置図

